

## 古川博士の気象コラム



古川 武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

春を告げる「<sup>けいちつ</sup>啓蟄」が巡ってきました。冬眠していた虫たちが、春の訪れを感じて地中から現れる時期を指します。

そして、この時期に行われる祭頭祭は、鹿島地方に春の訪れを告げる祭りとして知られています。春は若人が学舎を巣立って、社会に旅立つ季節でもあります。



▲昨年3月に行われた祭頭囃し

さて、皆さんの生活に身近な天気予報の裏側でスーパーコンピューターが活躍していることをご存じですか。平成30年6月に気象庁が導入したスーパーコンピューター（右写真）は、気象予測のプログラムをこれまでに比べて約10倍

の速度で処理する能力を持ちます。地上・海上・高層・気象衛星などの最新観測データを用いて、短期予報では1日2回、週間予報では1日1回の決まった時刻に計算を開始します。台風や集中豪雨、数週間先から数か月先までの予報をより精度良く予測できるようになり、防災・日常生活・社会経済活動のさまざまな場面で幅広く利活用されるようになりました。

皆さんも、新生活のスタートに天気予報をチェックしてはいかがでしょうか。



▲気象庁のスーパーコンピューター（東京都清瀬市の気象衛星センター構内）